

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人愛信芳主会	代表者	塚本恵里香	法人・事業所の特徴	カトリック精神に基づき愛と真心を持って福祉事業に努める。「施設理念」として①笑顔を提供する ②とにかくやってみる ③残りの時間を大切に考える ④本人や家族の想いを考える ⑤プロとして学び行動する
事業所名	丘の上倶楽部	管理者	亀井裕之		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	人	人	人	2人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	○「事業所自己評価」と「総括表」について、職員会議にて毎月点検を行う。	少なくとも職員全員が取組みを行ったが、職種や勤務形態などで違いもみられた。	特になし	①各改善計画について、職員会議などで毎月評価・見直しを行う。 ②雇用形態の違いなどで、地域や家族との関わりが持たなくても、施設で働く職員として意識を持つよう教育を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	○事業所の案内を設置して、相談や問い合わせをし易くする。移動式の看板を設置する。	人通りの無い場所なので、気軽には入りにくい。	特になし	①移動式看板は、適時内容を更新して設置を継続する。 ②玄関付近にも案内を設け、気軽に訪れてもらえるよう周知する。
C. 事業所と地域のかかわり	○移動式看板を設置し、介護などの相談窓口としての案内を掲示する。 ○感染症予防を継続し、地域での活動を拡大する。再開されるイベントなどあれば参加をする。	施設の認知度は低い。 相談が出来る場所との理解は進んでいない。 スタッフが地域の行事に参加する機会はない。	若い世代が多い地区のため、高齢者介護への意識が薄い。 気軽に訪れ易い雰囲気には見えない。 町内会も無いため、地域住民との関わりが取りにくい。	①SNS やホームページを活用し、利用の有無に関わらず、介護の相談窓口として気軽に訪れられるよう周知する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	○移動式看板を設置し、介護などの相談窓口としての案内を掲示する。 ○感染症予防を継続し、地域での活動を拡大する。再開されるイベントなどあれば参加をする。	コロナ以前に参加していたイベントには参加を再開することが出来た。 地域での情報が少なく、利用者以外の心配な方についての話しが無い。	地域のイベントが再開され始めたため、参加する機会が増えた。	①地域のイベントや行事の情報を収集し、可能なものには参加をさせてもらう。 ②所在地には町会が無いため、近隣の町会にも相談できる場所として周知を行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	○参加者を増やす 利用者 利用者家族 ○運営推進会議にて少なくとも1件は個別ケースなどの点検を行う	参加者を増やす取組みが足りなかった。 安定的に増やせなかった。 地域の心配ごとや、取組みについて検討する事が少なかった。	特になし	①運営推進会議の参加者を増やす。 ②運営推進会議にて少なくとも1件は個別ケースの点検を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	○防災計画を運営推進会議時に配布閲覧してもらう ○地域で行われる防災訓練等の情報を収集し、可能な場合は参加する ○運営推進会議委員へ防災訓練の参加を案内する	以前は地域の自主防災組織があったが、代表が変わってから活動が少なくなり、コロナによってまったくなくなってしまった。	地域でも防災訓練を行う事が少なくなっている。 施設での防災訓練は行っているが、住民や委員への案内や参加は無い。	①運営推進会議の中に防災計画・BCP への説明を入れる。(年度内に1回以上) ②運営推進会議にて、防災訓練への案内や防災訓練の報告を行う。